

(公開授業Ⅱ)

2017. 7. 7(金) 第2限

## 第3学年D組 社会科 学習指導案

1. 単元名 現代社会の見方や考え方

2. 教科・単元で提案する「やりくりのたとえば」

身近な問題の合意形成 どうやって決めたらいいのか  
～葉の投与と保険財政～

鳥取大学附属中学校  
社会科担当 梶川 昇

### 3. 授業構成

#### (1) 教師と教材

本単元は学習指導要領の公民的分野の内容(A)「私たちと現代社会」の項目(2)「現代社会を捉える枠組み」に相当する学習である。

学習指導要領において、本単元の身につけるべき知識・思考・判断・表現は以下のように設定されている。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 現代社会の見方・考え方の基礎となる枠組みとして、対立と合意、効率と公正などについて理解すること。

(イ) 人間は本来社会的存在であることを基に、個人の尊厳と両性の本質的平等、契約の重要性やそれを守ることの意義及び個人の責任について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 社会生活における物事の決定の仕方、契約を通じた個人と社会との関係、きまりの役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。

本単元では、対立と合意、社会生活における物事の決定の仕方に注目して授業を実践する。本節で取り扱う効率とは「社会全体で『無駄を省く』という考え方」を意味しているが、これは経済学における「パレート最適」に当たると考えることができる。「パレート最適」とは、「資源配分を行う際、だれかの効用(利益)を下げずに他の人の効用を高めることのできない状態」のことをいい、最も効率のよい資源配分がなされた状態を意味している。本節における公正とは「手続きの公正さ」や「機会や結果の公正さ」のことである。つまり、みんなが参加して決定するようになっているか、機会が不当に制限されたり、結果が不当なものになったりしていないかを意味している。

#### <扱う題材 新薬と保険財政>

本単元では現代社会の対立と合意、物事の決定の実例として国民保険と新薬投与に関する議論について扱う。

新薬とは治療のために新たに製造・発売された薬であり、代謝性医薬品や抗悪性腫瘍薬など 21 の薬効分類の下、製薬会社が開発を進めている。新薬開発の課題としては開発期間が平均して 9~16 年程度と長く、費用は多いもので 1 千億円を超えるものがあるにもかかわらず、ギャンブル要素が大きく、副作用などの理由により製品化に至らないケースも多いことが挙げられる。新薬開発は 2 万から 3 万分の 1 の確率で成功することもあり、高い安全性も求められるため、実験も繰り返される。そのため、コストが高くなるのである。

近年話題のオプジーボという新薬も開発コストが多くなっている。オプジーボは元々、悪性黒色腫という珍しい皮膚がんの治療薬として売り出され、投与の対象となる患者数

も少なかった。前述のように製薬会社の高額で長期わたる開発コストを回収するためには薬価を上げる必要があったため、患者一人あたり年間 3,500 万円となる薬価が設定された。日本ではもちろん、患者負担が過大にならないよう一定額を超えると公的保険制度でまかなう「高額療養費」という仕組みがあるため、患者個人の負担は少なく済み、この高額な薬価は財政が肩代わりすることになっている。

近年の研究により、オプジーボが肺がんなどの治療にも効果があることが明らかになり、効果があると見込まれた場合は肺がんなどの患者にも投与されるようになり、オプジーボの対象となる患者数が大幅に増加した。高額な薬価のままだと「高額療養費」制度のため国が肩代わりする金額が増え、国の財政を圧迫してしまう。そのため、オプジーボの薬価を下げろという議論が高まり、2017年2月1日からオプジーボの薬価は半額となった。

この減額により、損害を受けるのは新薬を開発した製薬会社であり、このオプジーボのような例が続き、薬価が下げられるのが当たり前になると新薬開発が進まなくなることも危惧されている。今後、高齢者が増えていくにもかかわらず、医療技術の進歩が止まってしまう恐れがある。同時に難病の人に対する新薬開発が進みにくくなることや、治療が進まなくなり、将来への不安は広がるのではないだろうか。

現在の日本は少子高齢化社会であるため、今後ますます財政圧迫が強まり、年金や医療保険などの社会保障の負担は増加するが、現役世代の人口は減り、税収は減少していく。税収が減り社会保障費がますます増加していく日本において無駄な税金の使用は少しでも減らしていく必要がある。新薬開発をどうしていくべきか、そもそも保険制度を変えなければならないのか。新薬と保険負担に関しては、この「対立」をどのように「合意」して「決まり」をつくっていくかが今後、必ず課題になるはずである。

## (2) 子どもと教師

生徒は、2年生の「世界と比べた日本の地域的特色」の単元で、日本の人口の変化と特色について学習しており、3年生でも少子高齢化を学習している。これら学習のなかで、少子高齢化はますます進行していくこと、現在存在する制度が将来失われるかもしれないことを学習している。本単元において税収が減り、社会保障が増加する将来の日本の姿を元に対立・合意形成を考えていくため、2年生のときの学習を発展・応用できるはずである。

3年D組は大半の生徒が真面目な授業態度で、授業も意欲的に取り組む。男子を中心に発言も積極的である。普段の授業の導入で行っている新聞記事の議論の場面では、自らの立場を明らかにしながら、教科書の記述や資料、最近のニュースなどをもとに発言する生徒もいる。また一部の生徒には相手の意見を聞いた上で、さらに意見をぶつけるなど思考の深まりもみられる。新薬開発に関してどうすればより効率であり、公正になるのか多様な意見が練り上げられることを期待したい。

### (3)子どもと教材

子どもたちは、地域社会や学校などの社会集団の中で多様な価値観と出会い、社会の多面性を理解する。しかし、近年は子どもたち同士でコミュニケーションをとり、お互いの多様な意見に出会うことやそれらに対立させて課題を解決するという経験が少ない。また、物事の決定においても学活や総合の時間のなかで簡単に多数決を採用して決定をおこない、対立する意見に関してどの部分で意見が違うのかを時間をかけて話し合う場面はあまり見られない。そこで、本教材では新薬に関する対立を解決する中で、資料とワークシートを用いた話し合い活動の中で様々な立場からの意見があることを認識し、それぞれの意見について、その背景となる立場から理解しようとする態度を身に付けさせたい。

### 3. 単元目標

- ・社会的背景に着目しながら、問題の所在について関心を高め意欲的に追求しようとしている **【社会的事象への関心・意欲・態度】**
- ・問題に対しての答えを持ち、自分の考え・立場を明確にして問題に対する答えを表現する **【社会的な思考・判断・表現】**
- ・対立を解消して合意に達するためには、決まりをつくる必要があることを理解する **【社会的事象の知識・理解】**
- ・対立を解消して合意に達し、決まりをつくるときには、効率と公正の2つの観点から考察することが有用であることを理解する **【社会的事象の知識・理解】**

### 4. 学習計画

私たちと現代社会(第2次まで 全11時間構成)

第1次 私たちが生きる現代社会と文化の特色 (7時間)

- 第1時 グローバル化
- 第2時 情報化
- 第3時 少子高齢化
- 第4時 持続可能な社会に向けて
- 第5時 私たちの生活と文化の役割
- 第6時 暮らしに生きる伝統文化
- 第7時 多文化共生

第2次 現代社会を捉える枠組み (4時間)

- 第1時 社会集団で生きる私たち
- 第2時 効率と公正 **(本時)**
- 第3時 決まりを作る目的と方法
- 第4時 決まりの評価と見直し

## 5. 本時の学習

### (1) 本時目標

- ・新薬に関する様々な立場について理解し、今後の日本において自分なりの意見を考えてそれを説明できる（思考・判断・表現）
- ・合意形成において効率・公正の視点が重要であることを理解する（知識・理解）

### (2) 本時のやりくり

身近な問題について議論の観点が複数あるため、意見や考え方の対立があることを理解する。そして、話し合いの中で、より効率的であり公正な合意形成をおこなう。

### (3) 本時の展開

学習活動	○主な発問や指示・予想される生徒の反応	・留意点◎評価【観点】（方法）
1 前時の復習 効率と公正の 意味を確認 する	○前回の学習でどんなことを考えましたか。 ・グラウンドの使い方 ・日数を平等に使えるように考えた	・前回の学習を復習しながら、課題を確認させる。 ・今日の議論に重要であることを印象づける。
2 本時の問いを 確認する		・単元目標を意識させながら、本時の問いを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">           国民皆保険の維持と財政圧迫の解決、優先すべきなのはどちらか。         </div>		
3 映像を見ながらどちらを優先すべきか、自分の意見をまとめる	○保険と財政とそれぞれの立場について、映像を見ながら、自分の意見をまとめよう。 ・まず、財政をなんとかしないと ・命はなによりも大事だから、保険は維持すべきである ・自分の身近な人だったらと考えると難しい	・対立がある問いであることを理解させて、両者の合意形成が難しいことを確認させる。 ・自分の意見をまとめるときに、効率・公正の視点を持たせる。 ◎様々な意見(対立)があることを踏まえて、自分の意見まとめることができたか。 【思考・判断・表現】（ワークシート）
4 班でどうすべきか意見をまとめる	○生活班をつくり、それぞれが考えた内容について確認し1つの意見にまとめましょう。 ・班の中で多数決をして、一つの意見にまとめた	・合意形成について多数決で簡単に決めてよいのか、会議をするならば誰が参加すべきかについても考えさせる。 ・班で一つの意見にするとき、どうやって決めるかを特に指示せずにおく。

<p>5 本時の学習 のまとめ</p>	<p>・意見が上手くまとまらなかった</p> <p>○本時の学習を経て，自分が感じたことや考えたことについてふり返しシートにまとめよう</p>	<p>・本時の学習をふり返るまとめをおこなう。</p> <p>◎効率・公正の観点に気づけているか。</p> <p><b>【知識・理解】</b>（ふり返しシート）</p>
-------------------------	---	--

## 現代社会の見方や考え方②

組 番 ( )

☆**効率・公正**を踏まえた議論

Q1. 効率と公正とは何だろうか。(前時の復習)

- |  |
|--|
| 意見① 一つの部が3日とも使用<br>○グラウンド(資源)を無駄なく使える<br>×ソフトボール部、陸上部がまったく使えない<br>意見② 各部が一日ずつ使用<br>○各部の使用回数が平等<br>×グラウンド(資源)の一部が余ってしまう |
|--|

効率→

公正→

Q2. 今日の本題, 国民皆保険 vs 財政の安定

(NHK『クローズアップ現代+2016年7月13日放送分』より)

①どちらを優先すべきか

国民皆保険の維持

財政圧迫の解決

②選んだ理由は... **効率, 公正の観点に注意すること**

③班で相談して結論を出してみる **対立から合意形成へ**

## ジレンマ・板挟み

意味→相反する二つの事の板ばさみになって、  
どちらとも決めかねる状態。



### たとえば、日本国憲法と財政

#### 第 13 条

すべて国民は、個人として尊重される。**生命**、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、**最大の尊重を必要とする。**

#### 第 25 条

- ①すべて国民は、**健康で文化的な最低限度の生活を営む権利**を有する。
- ②国は、すべての生活部面について、社会福祉、社会保障及び公衆衛生の向上及び増進に努めなければならない。

⇨高齢者の延命に制限を加えることは許されるのか。

### ほかにも、製薬会社と財政

新薬の開発年数	新薬の開発コスト	製品化になる確率
9~16年	1千億円にもなる	2万分の1, 3万分の1

⇨高い開発コストを回収するために高い薬価は不可欠

＝財政負担は重くないと製薬会社は苦しい

製薬会社の開発が進めば

- ・新薬の開発が進み、難病や症例の少ない病気の治療が進む
- ・がんなど対して、より安い特効薬ができるかも

無くなれば

- ・難病に対する治療が進まない
- ・オプジーボ以上のがんへの特効薬は生まれなくなるかも
- ・わたしたちの未来が暗くなる...と思いませんか。  
病気に対して最新の治療方法がなく、医学の発展が止まる恐れ